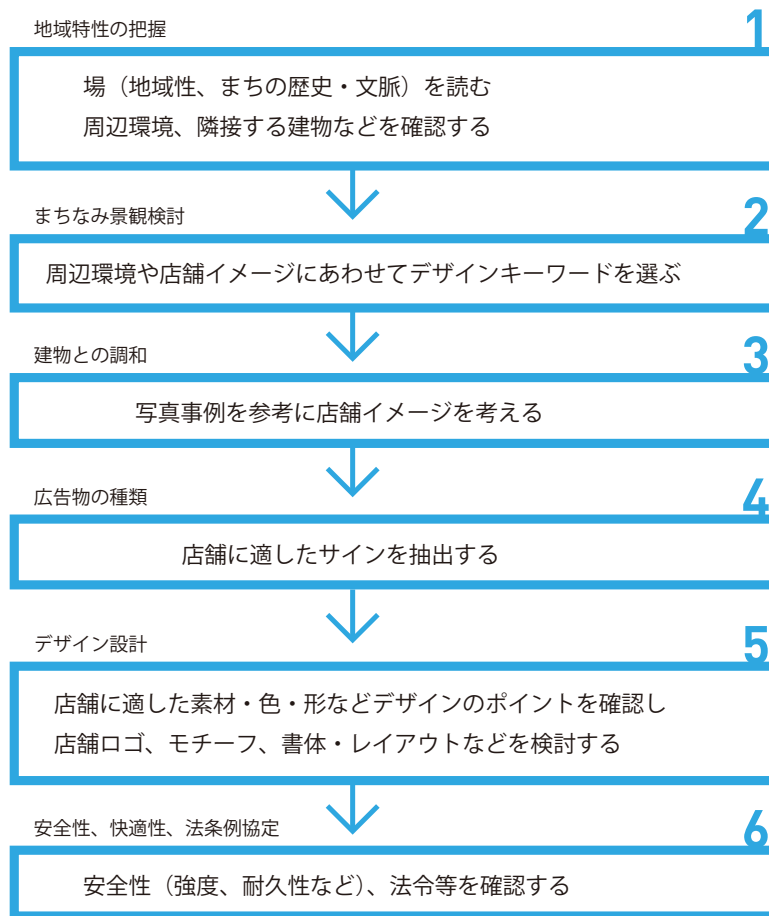


2. 横浜サインのつくり方

2-2a. 横浜サインの作成手順

～地域をどうとらえるか？～

横浜の代表的なイメージ「海、港」とあわせ、東洋と西洋のクロスカルチャーを表す「異国情緒」といったイメージが港から離れた内陸部でも持たれているようです。一方で、総持寺や弘明寺のようなお寺が近くにある地域では門前町の「粋」なイメージ、郊外の計画的まちづくりである新横浜や港北NTなど「近代化」のイメージなど、多様なイメージがミックスされていることが横浜の特徴といえます。



2. 横浜サインのつくり方

2-2b. サインデザインの手法と効果

【Design A】

Design A

人間味【やさしさ・温かさ】

【デザインのポイント】

「やさしさ・温かさ」を感じる素材

「やさしさ・温かさ」を感じるファサードとの一体感



素材の工夫により

「やさしさ・温かさ」を感じる例

センスある手作りの看板、親しみやすいイラスト、丸みを帯びた形状は、見る人を温かい気持ちにさせます。特に手作りの商品を取り扱っているような店舗では、手作り看板のセンスが良いと、店で販売しているものへのこだわりさえ感じ取れます。

ふと立ち寄りたくなるような味わいある看板は集客にも高い効果を発揮します。



通りや店舗ファサードの一体感により
「やさしさ・温かさ」を感じる例

商店街で統一されたデザインの看板、商店街を飾る共通のバナーなどは地域の一体感を感じさせ、商店街に活気を生み出します。

また木や緑など自然素材を用いたファサードは見る人に安心感を与え、それらファサードのイメージに合わせたベンチ、小物や植栽などを店舗入り口に配置することでよりやさしいイメージを醸し出します。



2. 横浜サインのつくり方

2-2b. サインデザインの手法と効果 【Design B】

Design B

伝統【粹】

【デザインのポイント】

「粹」を感じる素材

「粹」を感じる色

「粹」を感じるレイアウト



素材の工夫により「粹」を感じる例

行灯をイメージする形や、格子など伝統的なパターン、また、軒先に掲げる杉玉などのモチーフは和の心を感じさせるサインになります。看板の素材としては銅（緑青）や古木、鉄铸件、のれん（布）、瓦など、古くから用いられている素材が、その店の歴史や格式を表します。

色使いにより「粹」を感じる例

木を焼いたようなこげ茶、漆喰などの白、墨のような黒、時を経た布のようなきなり色、金箔に見られる鈍い金色など、主に無彩色で強いコントラストをもつ色の組み合わせにより粋なイメージを醸し出します。

落ち着いたレイアウトが「粹」を感じさせる例

看板の表示面に対し、文字を小さくし、多くのスペースを使ったレイアウトは緊張感や上品さを演出します。画面中央に配置した縦書きの文字、画面サイズやモジュール、設置位置を揃えるなど秩序ある配置が「粋」を引き立てます。



2. 横浜サインのつくり方

2-2b. サインデザインの手法と効果 【Design C】

Design C

国際性【異国情緒】

- 【デザインのポイント】
- 「異国情緒」を感じるロゴ
- 「異国情緒」を感じる建築との一体感
- 「異国情緒」を感じる様式



ロゴイメージにより 【異国情緒】を感じる例

古代ローマの碑文で用いられたローマン体をベースとしたロゴは異国情緒を感じさせます。19世紀になるまで欧州で長く使われてきた花や植物などの有機的なモチーフや自由曲線の組み合わせを使ったデザインは特に鉄の加工品（ロートアイアン）の看板と調和し、ヨーロッパの古い街並みを想起させます。



建築との一体感により 【異国情緒】を感じる例

サインは看板単体で成り立つものではなく、店舗ファサードと一体となったイメージによって形作られます。全体の時代性はもちろんのこと、看板の素材や色、モジュールを建物と合わせることでより雰囲気のある店づくりができます。

本体の様式により 【異国情緒】を感じる例

石やタイル、レンガなど欧州の伝統的な様式の建築素材に、ロートアイアンやランプなど装飾的なモチーフの素材が調和します。これら伝統的なスタイルのみならず、建築様式と看板素材の時代性を合わせることで、店舗の歴史観やポリシーを想起させることができます。

